
殺意の幼稚園

藤原 平城

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
殺意の幼稚園

【コード】
N4816U

【作者名】
藤原 平城

【あらすじ】
三題小説。テーマ「【殺意、十年、幼稚園】」

「Fujiwarahaijo.com、pixiv」に重複投稿

十年も昔に通った幼稚園の記憶なんて、曖昧なものだ。

私はほとんどなにも覚えていない。なのにカズったら懐かしそうに目を細めて、

「ここには思い出がいっぱいあるな。サキは覚えてるか？」

なんて平然と聞いてくる。

ふるふると頭を振った後で私が髪をかき上げると、「やっぱりそうか」とカズも左手で自分の髪に触れる仕草をする。

私とカズには同じ癖がある。

私が転校してきた時から、妙にそのことが気になって、ふとしたことで話しかけて、それから付き合い始めた。最近のことはよく覚えてる。

幼稚園には先生も園児もないようだった。

カズは私の肩を叩いて、開いた門を示しながら「入ってみようぜ」と私を誘う。

無人の園にはいとも簡単に潜入成功。私たちは中学生だけれど、これが殺意を抱いた不審者だったらどうなるだろうかと、他人事ながら不安になってくる。

遊具が並ぶ園庭を抜け、私たちは教室の中に入ってみた。

可愛い机は中学の椅子よりも低い。この机が十年前はピッタリだったなんて信じられる？

私はほとんど覚えていない。ただ、この幼稚園が大好きで、家に帰るのが嫌だと泣いて

「名字が違ってたから気づかなかったよ」
「なにが？」

「幼稚園の頃、好きな子がいたんだよ」

おませだね、と私が言うとカズは苦笑いした。

「その子は父親から虐待されてた。園では先生も手を焼く乱暴者で、愛情と憎しみの区別がつかない子だって。俺はその子がかわいそうになって……気がつけば好きになってたんだ」

それ、もしかして私……のこと、なの？

「ある日、その子が頭に包帯をしてきた。家で転んだんだって先生は言ってたけど、俺は本当の理由がすぐにわかった。だから俺は、その子に　サキに声をかけたんだ」

カズは私の前に立ち、そう言って私の髪を撫でる。

左の額に残った傷。髪で隠そうとして、知らずのうちに身についた私の癖。

そうか、カズにはわかってたんだ　。

あつという間だった。

平手打ちの音が鋭く響いて、同時に私は床に倒れこんだ。

左の頬がじんじんとしみる。私を見下ろすカズが冷やかに笑っていた。

「サキは椅子で俺を殴ったんだよ。カズくん、好きよ……って泣き叫びながらな。俺はもう少しで左目を失明するところだったよ」

左手で髪をかき上げたカズの額には、禍々しい傷の痕。

「どうだ、サキ。殴られて嬉しいだろ。俺からサキへの十年分の愛情表現だ」

……ありがとう。

小さな椅子を手に私は立ち上がり、殺意の瞳で彼を見つめる。十年前と同じように。

カズくん、好きよ。

こんな形でしか、言えないけれど。

《了》

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4816u/>

殺意の幼稚園

2011年10月9日06時36分発行